

伊豆山復興まちづくりワークショップ

発行：令和4年7月

◆伊豆山復興まちづくりワークショップを開催しました！

令和4年6月26日（日）13時30分から16時30分まで、熱海市役所第1庁舎4階第1会議室にて、新型コロナウイルス感染予防対策を実施したうえで、第2回伊豆山復興まちづくりワークショップを開催しました。

当日は、27名が参加され、ワークショップの目的と進め方をご理解いただいたうえで、第1回ワークショップで交わされた今後話し合っていきたいテーマを基に、参加者自らテーマを選択し、テーマグループごとに活発な意見交換をしていただきました。

日時：令和4年6月26日（日）13:30～16:30
場所：熱海市役所第1庁舎4階 第1会議室
参加者：27名



◆主な意見交換内容

1. 第2回 「これまでの伊豆山地区を振り返ろう」

第2回のワークショップでは、第1回「これからのワークショップで何を話し合いたいか」で交わされた14のテーマから、参加者自身が特に話し合いたいテーマを選択し、8つのテーマについてそれぞれのグループで意見交換しました。意見交換の中では、被災前の伊豆山地区を振り返りつつ、伊豆山地区で心配なこと、不安なこと、大事にしたいことを整理し、こうなっているといいなと思う将来像をまとめました。

第1回ワークショップで抽出された「これから話し合いたいテーマ」

～伊豆山地区のハード整備について～

- 公園に必要な機能・設備とは何か
- 暮らしやすい生活道路とは何か
- 歩いて行ける範囲に必要な機能とは何か
- 避難所に必要な機能とは何か
- 地区内の街並みで大事なことは何か

～伊豆山地区のソフト整備について～

- 伊豆山地区の魅力をアピールするためには
- 若年層・子育て層に定住してもらう環境とは何か
- 暮らしやすい伊豆山に必要な機能とは何か
- ライフスタイルに合った住み方とは何か
- お年寄りが住みやすいまちとは何か
- 町内会間での情報共有はどのようにすればよいか
- 防災体制で見直せる部分とは何か
- 次の災害に備えた計画に必要なものとは何か
- 今後の生活に補助・支援が必要なところはどこか

第2回ワークショップで「話し合われたテーマ」

- 生活道路・公園・地域に必要な機能
- 避難所に必要な機能とは何か
- 地区内の街並みで大事なことは何か
- 若年層・子育て層に定住してもらうには
- 暮らしやすい伊豆山に必要なことは何か
- 町内会間の情報共有はどうしたらうまくいくか
- 防災体制・次の災害に向けて
- 補助・支援が必要なところ



2. ワークショップで交わされた参加者からの主な意見

生活道路・公園・地域に必要な機能

◆心配・不安なこと

- ・道路の復旧、砂防ダム用の道が生活道路になるのか

<これまでの課題>=日常生活の不便さ

- ・救急車やバスが入れる道か
- ・階段が多くあり、避難の時に大変
- ・川上・川下の安全確保が心配

<今の暮らしの課題>

- ・ゴミ捨て場が遠くなる
- ・駐車場がないので家族の訪問が少なくなる
- ・雨の音で川が溢れないか心配
- ・人口流出などで友人が地域から離れてしまい戻らない（便利なところに移ってしまう）

<これからの課題>

- ・道幅が広くなると車がスピードアップ、車優先となり歩行者の安全性がダウン
- ・自家用車以外の移動手段の確保（バスなど）

◆大切にしたいこと

- ・日常生活の便利さ（近道など）
- ・安全な暮らしの確保（避難路や緊急車両など）

◆こうだったらいいなと思うこと

- ・バスが通り多くの人利用できる道路を確保
- ・生活用の便利な道は住民にも聞いてほしい（残してほしいところがある）
- ・道路の安全確保対策・スピード調節するもの
- ・防災面でも安心の道を考えていきたい

地区内の街並みで大事なこと

◆心配・不安なこと

- ・地形は変えられないが、高齢者が住みやすいようにしてほしい
- ・緊急車両が入れないところがある（待機場所の確保、岸谷本線の拡幅など）
- ・まちを元通りにするのか、住みよいまちに変えるのか方向性が決まると話がまとまりやすいのでは
- ・計画づくりに住民意見が反映されているか手続きが不明確になっている

◆大切にしたいこと

- ・逢初橋や相模湾が見える畑は残したい
- ・地域が分断されることは嫌

◆こうだったらいいなと思うこと

- ・よろず屋（日用品・食料品）、更に宅配もしてくれと嬉しい
- ・お年寄りも子どもも暮らせる街並みにしたい
- ・坂道が苦にならないモビリティやシェアカーを導入できたらよいと思う（トヨタのwoven city（ウーブンシティ）の取組みは参考になる）
- ・川の流れを利用した小水力発電を設置できれば、売電、防災（防犯灯など）、エネルギーの地産地消につなげたりできると思う
- ・夜間のライトアップで観光者向けの“映え”をねらったり、地域の人が歩きやすくしたり
- ・子どもの遊び場（昔の飯場）、魚釣りの場所

避難所に必要な機能

◆心配・不安なこと・大切にしたいこと

①仲道公民館（避難所未指定）での避難生活

- ・水、電気がない
- ・伊豆山小に避難指示があったが、足元が悪く避難できない
- ・伊豆山を語る会で伊豆山小学校に避難することを決めていたが、道が寸断されてしまった

②MOA駐車場（避難所未指定）への避難

- ・桃山小、熱海中に車で移動
- ・避難物資が配布される情報提供がなかった
- ・持病がある方はホテル、リフレッシュセンターに移った
- ・どこにいればよかったのか、自分で判断するものがなかった
- ・ペットがいる人はトイレのみ利用可能だった

◆こうだったらいいなと思うこと

- ・“安心して避難できる=あそこに行けば安心”となる場所にしたい
- ・避難経路やお手洗い（高齢者が使いやすいものに）、余分な教室の活用や校庭の駐車場利用
- ・段差なく避難できるとよい
- ・生命を守る避難所、ご近所や組仲間で声を掛け合う（助けが必要な方の情報を共有）
- ・保養所やマンションのゲストルームとの災害時の活用・連携（車での避難に備えた駐車スペースも含む）

若年層・子育て層に定住してもらうには

◆心配・不安なこと

- ・歩いて通学は大変で危険（スクールバスは出せないか）
- ・児童数が学年によってばらついていて、集合住宅を建設すれば人が増えるのか
- ・「昔ながらの付き合い」の空気感（こうあるべき）には、移住者が口を出しにくい。新しく入ってきてほしいのに、なじめるのが課題
- ・通勤するには大変なところで、子育て世代は仕事（親）が優先されてしまう

◆大切にしたいこと

- ・のびのびとしているところは大事にしたい
- ・逢初橋は原風景であり、歴史的な価値があるものは大切にしたい。
- ・坂も風景としては財産（ただの住宅地では価値が少ない）、坂=弱点を長所にできるとよい
- ・海が近くても、海を感じない

◆こうだったらいいなと思うこと

- ・通勤・通学の費用を市が補助（子育て応援金）
- ・子どもも大人も楽しめる町内行事がほしい
- ・声かけするコミュニティ（横のつながり）=いいことも、危ないことも
- ・「熱海に住もうよ」ポスターなど、子育てしやすいと思わせるきっかけづくり
- ・移住してきた人にも発信してもらう
- ・市街地直通バス（往復200円程度）

暮らしやすい伊豆山に必要なこと

◆心配・不安なこと

- ・復興計画が自分の生活に合うのか不安、でも早く帰りたいことも話したかった
- ・きれいな街をつくったからと言って暮らしやすさには必ずしも繋がらない。きれいなまち=伊豆山の人と思う、伊豆山ならではにはならない不安
- ・市の計画ではハードとソフトのバランスがうまく見えない（これまでの公園設計など）
- ・整備時期が長く、見通しが立たない

◆大切にしたいこと

- ・生まれ育った土地への愛着、自分の子供たちにとっての故郷は守ってあげたい
- ・個人の譲れない事情・大切にしてきたことをお互いに尊重できるまちをつくる=決定されたプロセスを理由も含めて発信していく

◆こうだったらいいなと思うこと

- ・今ある道を拡幅すれば利便性が上がるのに、なぜ新しい道を作るのか
- ・どうせ作るなら、いいものをつくりたい
- ・大々的に便利にしなくても、“ちょっとずつ便利”、“ちょっとずつ安全”になれば“ちょっとだけ不便”でも構わない。暮らしやすいまちへの近道と思う
- ・昔ながらのコミュニティは精神的に安心
- ・古いものが悪いわけではない。新旧のバランスのいいまちづくりをしたい（道路など）

町内会間の情報共有はどうしたらうまくいくか

◆心配・不安なこと

- ・肝となるテーマだがポテンシャルが低く連携できていない
- ・土砂が流れるリスクを情報共有できていなかった（七尾地区にダンプが行き来、小規模だが土砂の流出があったこと）
- ・発災後も地区内・町内会間で情報共有できていない
- ・祭りの文化が違うことが原因の1つ（伊豆山神社、本宮、日枝神社それぞれで異なり、共有がない）

◆大切にしたいこと

- ・今まで守ってきたものを変えたくない
- ・ワークショップにも各町内会長が来てほしい
- ・「何を」「いつ」「どのように」共有したら良いか明らかにする=そこを話し合うことが大切
- ・町内会にも若い世代が参加してもらいたい
- ・町内会に入るメリット・大切さを知る・聞く・動く・活動する
- ・若い人が伊豆山の歴史を学ぶ場をつくっていく必要がある

◆こうだったらいいなと思うこと

- ・7町内会議を公開してほしい
- ・町内会長に頼らない仕組み・助ける仕組みを作っていく
- ・若い世代からの発信や働きかけも重要と思う

防災体制・次の災害に向けて

◆心配・不安なこと

- ・すぐに大雨や異常気象がやってくる
- ・避難所が伊豆山小は現実的ではない（お年寄りが安全に移動できるように）
- ・発災時の第一報が大事。その時には、地名・場所は子ども、お年寄りにもわかりやすい言葉や表現で）
- ・第2の盛土が心配
- ・大変な状況をなかなか知ってもらえておらず、市からのしっかりとしたバックアップをしてほしい

◆大切にしたいこと

- ・危ない場所を把握して実情に合わせた対策を取ってほしい、地域でも共有することが大事
- ・大変な生活の状況を知ってほしい

◆こうだったらいいなと思うこと

- ・今回の災害の教訓として、防災マニュアルが各家庭にあたり（全員がわかりやすく、1冊にまとまっている）、日ごろの広報も見直せるところがあるのでは
- ・市・町内会・住民の間で、どこが危ない箇所となっているか、情報共有し地域連携すべき
- ・高齢者の避難指示に合わせて、移動手段の提供がなされるとよい
- ・サイレンを鳴らすことも必要
- ・ご近所での声かけは地元でもやっていける
- ・第四分団詰所を活動しやすい場所に確保する

補助・支援が必要なところ

◆心配・不安なこと

- ・お金の支援なしには戻れない（義援金では足りない）
- ・仮住まいへの補助がなくなる不安がある（警戒区域解除後すぐに補助がなくなるということも無理）
- ・流された土地をどこまで県・市で造成するか
- ・家の修繕はどこまで必要かわからず、見積りも取れないので、公費解体の期限を延長してほしい
- ・いつ戻れるか、戻ることへの不安（家の劣化が進んでいく）
- ・1年間仕事もできておらず、収入に対する補助もない（工場も警戒区域に取られている）
- ・創造的復興で被災者が置き去りにされないか

◆大切にしたいこと

- ・単なる復旧ではダメだし、時代をリードする復興がゴールになってもダメ
- ・水害として取り扱って欲しくない

◆こうだったらいいなと思うこと

- ・市独自の支援策が欲しい（公費解体の延長、税金、ローン無利息支援など）
- ・警戒区域解除後の住めるようになるまでの準備期間の援助
- ・ライフラインを家まで接続させる
- ・引越などを行う際のボランティアがほしい
- ・事業者への支援も継続してほしい

3. テーマ以外で交わされた参加者からの主な意見

- ・対象区域が警戒区域とその周辺になっていることに違和感がある。伊豆山地区とするならば、各地区の代表者には出席してもらう必要があると思う
- ・かわら版に掲載する情報の取捨選択等に疑問があり、可能であれば地元・参加者も編集に参画したい



- ・事務局で再度検討します。
- ・かわら版発行までのスピード感を重視し、これまでどおり事務局で作成しますが、今回から情報量を多くするため、サイズを大きくし、より多くの情報やご意見を掲載しています。

4. ふりかえり：ワークショップの後、みなさんからたくさんのご意見を頂きました！！

○：これから話し合いたいこと 話しきれなかったこと

- ・子どもたちの未来をよくするために現実的に何からできるか考えてみたい
- ・伊豆山の中高校生向けのワークショップをやってもいいのではないか
- ・住民が自分たちでまちづくりをしたということが大事
- ・エネルギーの地産地消モデルが出来ないか
- ・この災害から学ぶべきところはどこか

□：移動しなかったグループへの意見・アイデア

- ・住んでいる人にあわせてモビリティ整備（シェアカーなど）があるとよいと思う
- ・他のグループのまとめをもっと長く見たかった
- ・共通の言葉が他のところでも出ていて、つながっていると思った

☆：その他ご自由にご記入下さい

- ・色々な話を聞けるワークショップのような機会を大切にしていきたい
- ・土地利用を進めていくうえでの前提条件が整わないと話が進みにくいテーマもある
- ・方向性がまとまりつつあり、実現性を含めて伊豆山全体に共有していけばよいと思う
- ・よりよいものを作るには時間がかかるが、高齢者には残された時間が少ない
- ・小さい階段など残してほしいものがある
- ・自分たちの声が行政や議員に伝わることを願っている

？：質問や今後の進め方などに対するご意見

- ・テーマに入るまでの質問時間が長く、意見交換の時間を長くしてほしい
- ・参加者は今のメンバーのままよいと思う
- ・他の町内会からも幅広い意見を貰えるとよいと思う
- ・戻りたい人と戻れない人に分けて意見交換すると違った意見も挙がるかもしれない

第3回ワークショップの予定 ぜひご参加ください！

日時：令和4年7月31日（日）13:30～16:30

場所：熱海市役所第1庁舎4階 第1会議室

テーマ：「伊豆山地区の将来像を具体化しよう」

対象：警戒区域内にお住まいだった方（避難されている方）または 伊豆山浜・仲道・岸谷地区にお住まいの方

第3回ワークショップから参加をご希望の方は、令和4年7月27日（水）までに、①～③いずれかの方法にて、【氏名・お住まい・電話番号】をご連絡ください。（第1・2回ワークショップ申込済の方は申込不要です。）

①電話 0557-86-6213 ②FAX 0557-86-6152 ③メール fksuishin@city.atami.shizuoka.jp

なお、新型コロナウイルス感染予防対策のため、参加者数に上限を設けています。事前にお申込のうえ、ご参加いただきますようご理解・ご協力をお願いします。（上限になりましたら、申込締切とさせていただきます。）

◆お問合せ◆ 熱海市役所 経営企画部 企画財政課 復興推進室

〒413-8550 静岡県熱海市中央町 1-1

TEL 0557-86-6213/FAX 0557-86-6152

メールアドレス（fksuishin@city.atami.shizuoka.jp）まで